



愛知労働局長がベストプラクティス企業を視察訪問しました

愛知労働局では、令和4年11月29日、代田雅彦局長が労働時間の削減等に積極的に取り組む愛知県豊田市の碧南運送株式会社（従業員数614名）を視察訪問し、榊原俊二取締役社長らと対談しました。

同社は自動車部品輸送及び中継拠点を使った混載物流事業などを行っています。労働時間の削減に向けた取り組みとして、IoT技術を活用し、人と車両の稼働状況の見える化を図っています。車両に搭載したドライブレコーダー一体型の通信型デジタルタコグラフのデータを分析し、荷待時間が長い場合には、輸送順序の入れ替え等を検討し、荷主への説明の際にもデータを示して理解と協力を得た上で、効率的な運行順序・経路に変更します。

成果の一例として、今年6月の段階で一運行14.4時間（稼働11.6時間、待機2.8時間）であった輸送ルートが、改善後の11月には9.9時間（稼働9.1時間、待機0.8時間）にまで短縮されました。



また、同社は作業標準にこだわった活動を展開することにより、質の高い業務を誰もが常に最高スピードで安全に作業できるようにする取り組みも継続的に行っています。作業標準はPDCAサイクルを廻すことにより、より良いものへと改訂をしながら、生産性の向上を図るとともに、労働時間の短縮を推進しています。

代田局長は「従業員一人一人がやりがいを持って働いていると感じた。日々の取り組みは、成果もそうだが、その過程自体に意義があると思う。」と述べ、榊原社長は「ベストプラクティス企業に選んでいただいたことは会社にとっても従業員にとっても励みになる。今後も継続的に取り組みを進めていきたい。」と話しました。